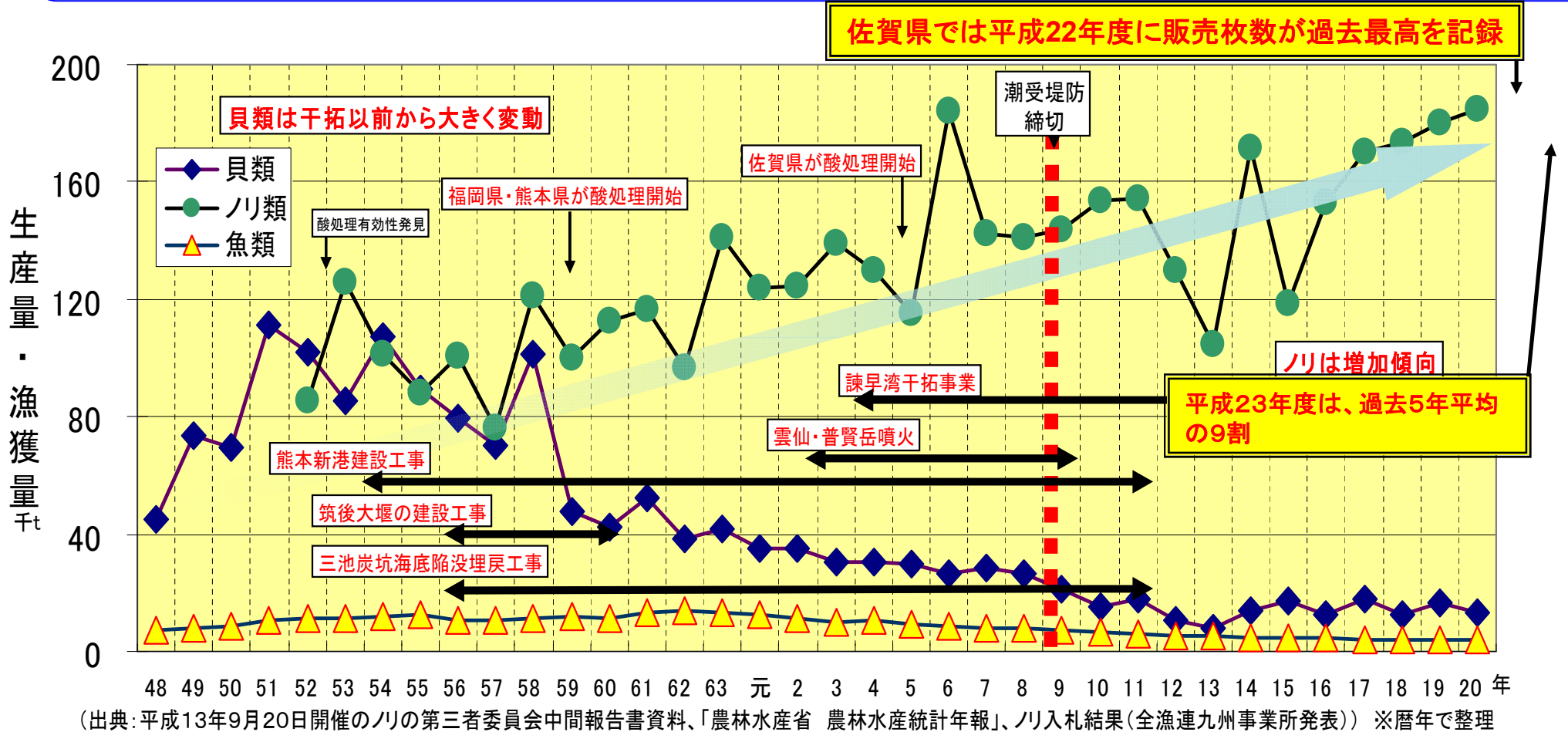


有明海における魚介類が減少した時期は、有明海湾奥部の干拓事業の完成時期、熊本新港や筑後大堰などの大型公共事業やノリの酸処理剤使用開始時期と一致。

- 1 ノリの生産量は平成12年漁期（平成12年11月～平成13年4月生産）の不作を除けば一貫して増加傾向。
- 2 貝類漁獲量の減少傾向は、諫早湾干拓事業が開始されるずっと前から始まっている。
- 3 貝類漁獲量が大きく減少した際は、熊本新港や筑後大堰などの大型公共事業やノリの酸処理剤使用開始時期と一致。
- 4 ノリ養殖への酸処理剤の使用が、貝類等の漁獲量減少に大きく影響しているとの指摘もある。



ノリの生産は右肩上がりのトレンド

有明海に影響を及ぼす可能性のある要因(位置図)

佐賀クリーク

筑後大堰

有明海全体の流域の約34% (諫早湾干拓調整池の約11倍)



三池炭坑海底陥没埋戻工事

ノリ養殖(緑色)

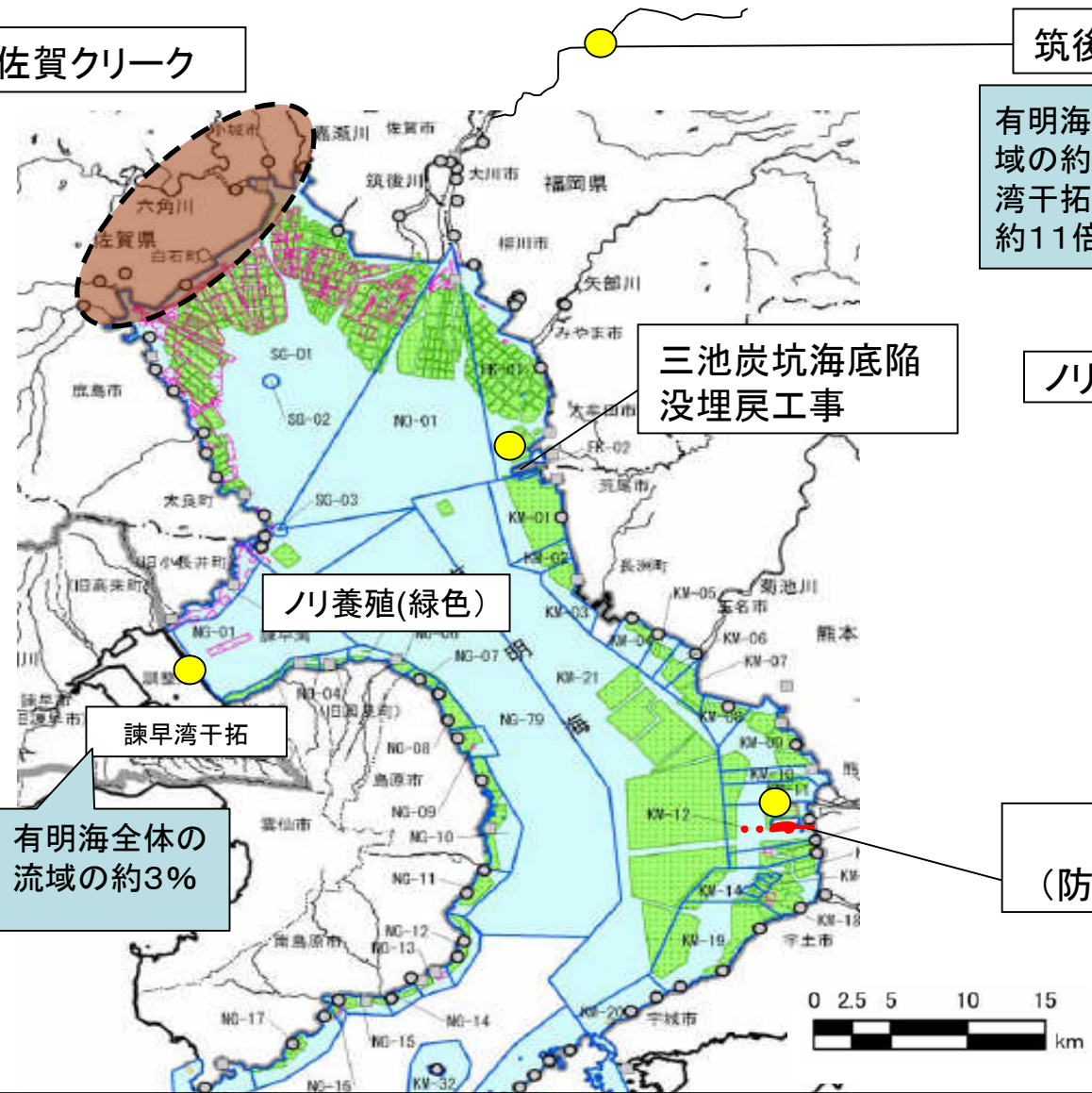


ノリ養殖(緑色)

諫早湾干拓

有明海全体の流域の約3%

熊本新港 (防波堤約3km)



有明海全域における複合的な要因を考慮に入れた総合的な調査・研究、対策が必要です。国においては、筑後大堰の影響や佐賀クリークの汚水排水の影響、ノリ酸処理剤等の影響をしっかりと調べて頂きたい。